世界日報　The Sekai Nippo　平成2年（1990年）5月26日（土曜日）

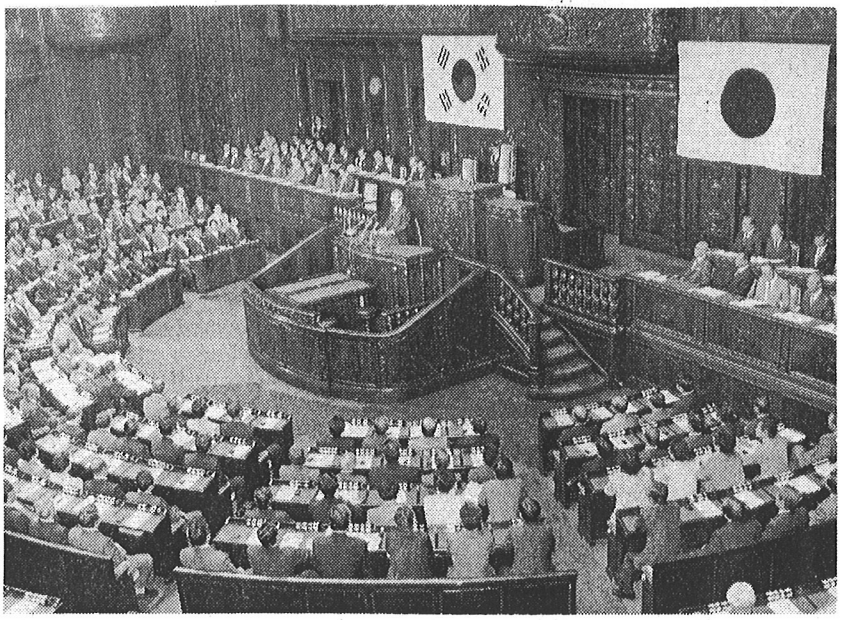
南北統一、今世紀中に

盧大統領が国会演説

日韓トンネルへも期待

天皇陛下の「お言葉」による両国間の「不幸な過去」についての一応の決着を受けて、日韓両国は二十五日、中山外相と瀋浩中外相の会談で定期経済協議の開催で合意するなど、未来志向的な日韓新時代への第一歩を踏み出した。日韓法相会談では、韓国側は在日韓国人の法的地位について一層の改善を求めた。また、盧泰愚韓国大統領は同日午後、天皇、皇后両陛下と東京・元赤坂の赤坂御苑を散策され、海部首相主催晩さん会でのあいさつで、「真の善隣友好の新時代を開かねばならない」と重ねて強調した。盧大統領は二十六日、海部首相との第二回首脳会談に臨んだあと、大阪に立ち寄り、帰国の途に就く。

（2、3、社会面に関連記事）



衆院本会議場で演説する盧泰愚・韓国大統領＝25日

韓国の盧泰愚大統領は二十五日午前、衆院本会議場で韓国大統領として初めて国会演説を行った。「変化する世界の中の新たな韓日関係」と題した同演説の中で盧泰愚大統領は、ベルリンの壁崩壊に象徴される欧州を中心とした国際情勢の変化に対応して、韓半島など北東アジアの平和と繁栄を構築するため日韓両国の「共同の努力」を強調するとともに、南北の平和的統一を今世紀中に実現したいとの決意を示した。「友情を阻む心の壁」が残っていると指摘したものの、今後日韓両国は「真実に基づく理解」を土台とした包括的な善隣友好時代への移行が必要と訴え、真の隣人関係確立のため「両国は世界へ、未来へと手に手をとって進まなければならない」と述べた。さらに日韓の「海底トンネル」への期待を示した。

盧大統領は、まず「両国が今や近くてさらに近いパートナーにならねばならないという信念をもって日本を訪問した」と切りだし、両国の未来志向的な関係の構築を表明。戦後の日韓の歴史を展望するとともに、韓国民主化の推進の決意を明らかにした。

さらにソ連、東欧の民主化、欧州統合化の歴史的流れに触れ、「冷戦から和解と協力の波が世界に満ちあふれている」としながらも、新たな世界秩序の形成、貿易摩擦の激化などの挑戦を受けていると指摘。こうした変化と挑戦への対処として北東アジアでの「共同体関係の発展」を認識しながら、同地域の平和と繁栄のため日韓両国の「共同努力」の重要性を強調した。特に韓半島情勢について、今世紀中に南北の平和的統一を実現する決意を示すとともに「北韓にも間もなく変化が訪れ、北韓は開かれた世界に登場する。そのためにあらゆる努力を傾ける」と述べ、南北関係改善に強い意欲を表明した。

日韓両国の過去に関連して大統領は、「過ぎ去ったことは神でさえも変えることができない。しかしわれわれの行動次第で過去の束縛を断ち切り、過去のしこりは消し去ることができる」と語り、在日韓国人の法的地位改善への一層の努力を要請した。また日韓関係強化のため、貿易不均衡の是正、日本からの技術移転を求めた。

最後に大統領は、真の隣人関係確立を訴え、日韓間の「海底トンネル」による日本、韓国から北京、欧州に至る「友情旅行」の実現に期待を表した。

首相らに「お願い書」

日韓トンネル研究会

盧泰愚大統領は二十五日国会で行った演説の最後の部分で、日韓を結ぶ玄界灘の海底トンネルに言及し注目されたが、七年前から、このトンネル建設事業を計画し、調査、研究を続けている民間団体、国際ハイウェイ・プロジェクト日韓トンネル研究会（会長・佐々保雄北海道大学名誉教授）は、二十五日までに同研究会が行ってきた調査研究の資料、報告書を検討することなどを内容とした「お願い書」を、首相をはじめとした関係各省庁の大臣、局長、日韓議連会長・副会長、地元選出の国会議員などに送付した。

同研究会は、三部会による研究会を継続するとともに、数十億円を投入して、建設予定区域（東松浦郡、壱岐、対馬）の地質踏査をほぼ完了し、パイロット・トンネルの掘削工事を着工している。